



れんけいと支援

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,

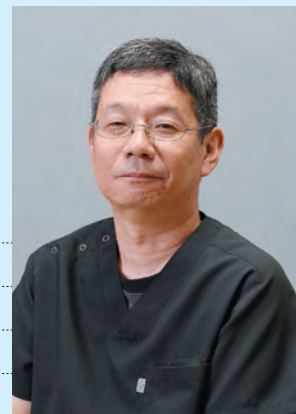
Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112代 http://www.tch.toyama.toyama.jp / 発行日 2019年12月



胃がんについて

消化器内科 上山本 伸治



胃がんの多くは、萎縮をおこしている胃の粘膜から発生します。最近になって、胃の粘膜萎縮はヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)という細菌が大きく関わっていることが判明し、ピロリ菌を除菌すると、萎縮や胃炎が改善、その結果、胃潰瘍、十二指腸潰瘍のほか胃がんの発生も抑えられることもわかってきました。

胃がんの自覚症状には特有なものはありません。早期胃がんでは症状はなく、進行した胃がんでも、嘔気・嘔吐、胸やけ、げっぷなどの、普段、胃の調子が悪いときでも経験する症状です。そのため本人は元気なつもりでいても、検診などで検査を受けることによって、がんが見つかるケースも少なくありません。胃がんの検査方法には、よく知られている胃内視鏡検査・胃部X線検査(バリウム検査)のほか、血清(血液の一部)を用いた検査で、胃がんのリスクが高い方々を選別し、早期発見につなげる方法があります。

胃がん治療には、大きく分けておなかを開ける治療(開腹手術、腹腔鏡下手術)と開けない治療法(内視鏡治療、放射線、化学療法など)があります。癌が粘膜までの浸潤なら内視鏡治療が行われ、粘膜より下の層まで浸潤していた場合は、手術治療が行われます。もし癌が胃以外の臓器に転移していた場合は、全身化学療法を行います。化学療法は骨髄抑制(白血球や血小板などが減少す

る)や脱毛、吐き気、下痢などがあらわれますが、今では白血球を増加させる薬剤や抗がん剤による嘔吐を軽減させる薬剤など副作用を和らげる薬が開発されており、これらの薬剤を利用しながら、患者さんの負担を少しでも軽くして、抗がん剤治療を行えるようになりました。

最後に胃がんの予防についてお話しします。ヘリコバクター・ピロリ菌感染による胃の粘膜萎縮以外に、胃癌のリスク増加要因として、塩分の過剰摂取や米飯多食、熱い食べ物、飲み物、不規則な食事などが言われています。一方、胃がんの予防に有効な食生活として、牛乳、乳製品、生野菜、果物などを摂ることがすすめられています。また、日常生活で心がけることとして過度の飲酒、喫煙、肉や魚などの動物性たんぱく質のこげ、カビなどはなるべく摂取せず、緑黄色野菜、緑茶、ビタミンCを積極的にとることががんの発生を抑えるともいわれています。胃がんの罹患率の減少と共に死亡率は急速に低下しており、これは検診の普及による早期発見と早期治療、治療技術の向上によるものです。食生活に注意し、定期的に検診を受け、がんを早期に発見し治療することが重要なことです。

新任医師紹介



整形外科部長 **堀井 健志**

富山で働くのは27年ぶりです。地域の医療機関から信頼される医療を提供できるよう努力します。



整形外科 **石田 善浩**

格闘技を15年間しております。体力・気力・礼の心で患者さんを全力でサポートさせていただきます。

1月分

研修・講演・勉強会のご案内

1. 地域連携症例検討会

※令和2年1月の地域連携症例検討会は都合により中止いたします。

今回の開催は、2月11日が祝日となりますので**2月18日(火)19時**からを予定しています。

ご参加をお待ちしております。

予告

日時：令和2年2月18日(火) 19:00~20:15 場所：当院3階 講堂

※2月11日が祝日のため変更になっております。

内容：①症例検討 2例(脳神経内科・眼科) ②ミニレクチャー (担当) 精神科



2. 内科CPC

日時：1月14日(火) 17:30~

場所：医局カンファレンス

3. 緩和医療部会学習会

日時：1月14日(火) 17:30~18:15

場所：看護外来

○テーマ：がん患者のリハビリテーション

○講師：理学療法士 竹林 由希世

4. 医療機器研修会

1月の開催はありません。

5. 糖尿病研究会定例学習会

1月の開催はありません。

6. 感染予防対策学習会

1月の開催はありません。

7. 褥瘡対策学習会

日時：1月24日(金) 17:30~18:00

場所：301会議室(旧集団指導室)

○テーマ：褥瘡とおむつの当て方

○講師：皮膚・排泄ケア認定看護師

青木 かずみ

8. NST学習会

日時：1月27日(月) 17:30~19:00

場所：講堂

○テーマ：周術期の栄養管理、偽膜性腸炎について

○講師：外科医師 庄司 泰弘

9. 看護研修

※《衛星研修S-QUEシリーズ》は、3日前までに予約申込みが必要です。視聴可能日は、月・木(祝日を除く)の14時~16時の間で予約制となっていますので視聴を希望される方は、ふれあい地域医療センターへご連絡ください。(TEL076-422-1112代表 内線2989)

《衛星研修S-QUE Eナース》

○テーマ：糖尿病患者のセルフマネジメント支援技術

視聴期間：1月15日~2月12日

○テーマ：コーディネートナース中心の糖尿病診療~地域連携、多職種連携

視聴期間：1月28日~2月21日

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

年末年始のふれあい地域医療センターの業務については以下のとおりとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

12月28日(土)~1月5日(日) 休み 1月6日から通常通り

※なお、救急患者さんの対応に関しては、**救急センター**へご連絡ください。



院内の活動のご紹介

的確な褥瘡ケアを 目指して!

褥瘡対策委員会
皮膚・排泄ケア認定看護師

関口 聡子



当院の褥瘡対策委員会は、院内における褥瘡発生を予防し、発症早期より適切なケア・治療を行える体制を整えることを目的としています。医師2名、看護師(皮膚・排泄ケア認定看護師2名含む)8名、薬剤師1名、栄養士1名、理学療法士1名、事務1名の14名の多職種のメンバーで構成されています。さらに各病棟には褥瘡専任看護師が30名おり、入院患者に対する褥瘡予防・治療・評価および実践指導を行っています。

具体的な活動は、月1回の委員会で前月の褥瘡保有・発生状況と経過、体圧分散寝具の使用状況などを報告、週1回の褥瘡カンファレンスで褥瘡対策に関する問題点などについて検討しています。また、毎月第2、4金曜日に院内の全ての褥瘡患者さんに対して褥瘡ラウンドチームによる回診を行い、褥瘡を評価し、ケアおよび処置に関して助言・指導をしま

す。その他、体圧分散寝具の管理や情報誌“とこずれ瓦版”の発行も行っています。

褥瘡対策に関する知識を習得する為、第4金曜日17:30から学習会や年1回院内講演会を開催しています。当院の職員のみならず、他の医療機関や介護施設の方々にも参加していただけるように案内しています。

近年、褥瘡は病院や介護施設での発症率と保有率は著しく低下してきました。しかし、入院期間の短縮や国による在宅医療の推進により、今後在宅での褥瘡ケアがより重要になると考えられます。当院では重度褥瘡のケアでお困りの方で訪問看護を受けている方に、皮膚・排泄ケア認定看護師が訪問看護師さんと一緒に訪問をします。ケア方法について一緒に検討し、経過を見て評価・改善できるように努めます。必要な場合はお知らせください。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

1月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	水野	17日	呼吸器・血管外科	瀬川	16日
整形外科・関節再建外科	堀井	29日、31日	眼科	山田	24日

※その他、急に不在となることがありますのでふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。
TEL 076-422-1112 (代) 内線 2168

編集後記

今年もいよいよ押し迫って参りました。

さて、私事ではありますが先日、岐阜にある祖父の家へ遊びに行き、自治会と民生委員が開催するふれあい・いきいきサロンへ一緒に参加してきました。雨の日でしたが30名近くのお年寄りが参加され、90代の方も数名いらっしゃいました。談話や昔懐かしの歌、歌に合わせてハンドベル、と私自身も非常に楽しい時間を過ごしました。祖父の地域では週に1回、このようなサロンがあり、体操をしたり、大学生の落語を聞いたりしているそうです。

高齢になってもこのような楽しみがあり、外出のきっかけとなり、地域住民同士での見守りにも繋がり、非常に良いなと感じた1日でした。

ふれあい地域医療センター 雨宮 里恵



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp